

委員会等の動き



第二回定例会での常任委員会の審査・調査の状況

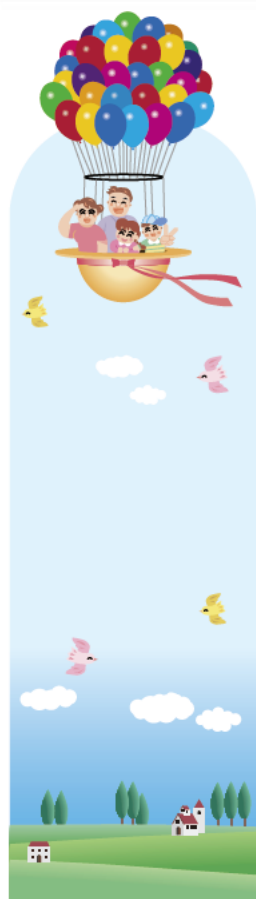
六月十五日、十六日及び十七日に各常任委員会が開催され、付託された議案の審査を行うとともに、所管部局の事務について調査を行いました。また、県が前年度に取り組んだ事業の成果と課題、今年度の展開をまとめた「二〇〇四年版県政報告書」について、翌年度の県政運営に反映させることを目的に、各委員会が共通して調査を行い、意見をとりまとめました。

また、六月二十一日には、徳山ダム建設事業について重ねて調査を行うため、副知事の出席のもと、防災生活振興常任委員会と県土整備企業常任委員会との連合審査会が開催され、県の費用負担、導水路計画、同事業にかかる情報提供などについて、様々な意見や提言が出されました。

新しい予算決算特別委員会の審査・調査の状況

今回、予算決算特別委員会には、議案第一号「平成十六年度三重県一般会計補正予算(第一号)」ほか五件の予算案及び予算関連議案が付託され、関連する健康福祉環境森林と総務企画の分科会が常任委員会と同時開催され、それぞれ議案の詳細審査を分担しました。また、「三重県における補助金等の基本的な在り方等に関する条例」に基づき、全分科会(六分科会)で交付決定実績調査の調査を行いました。

六月二十一日には、予算決算特別委員会を開催し、分科会委員長による審査結果報告を受けた後、付託された全ての議案を全会一致で可決すべきものと決定しました。



海外調査報告

スペイン・ポルトガル視察報告

新政みえ有志五人(舟橋裕幸、森本哲生、田中俊行、藤田泰樹、清水一昭)は、四月二日より十一日までスペイン・ポルトガルの行政視察を行いました。

目的は、オリンピック・万国博覧会後の施設活用及び都市再生状況視察と、三重県と州県友好提携地であるパレンシア州政府表敬訪問などでした。

ただ、三月十一日のマドリッド列車爆発テロをはじめ、以降幾度かのテロ事件により視察先の変更を余儀なくされました。

パルセロナでは、一九九二年の万国博覧会、一九九二年のオリンピックの開催を目的とするものではなく、都市計画の手段として生かすしたたかさという手法を学ぶことが出来ました。

パレンシア州は、マドリッド州、パルセロナがあるカタルーニャ州に続くスペイン第三番目の州であり、農業のみならず工業、サービス業とともに大変発達しており、おおよそスペイン経済全体の十%を占めています。パレンシアオレンジに象徴されるような農業地域のイメージだけでない現状を知ることが出来ました。

同時に、野呂知事の親書を渡し、一九九二年十一月より続く三重県とパレンシア州との交流の一助になり得たところです。

セビリアは一九二九年、一九九二年と二回万国博覧会を開催し、都市計画

により原野を街づくりにうまく活用しています。日本の万国博覧会と異なり、パビリオンを恒久的建造物で建設し、開催時の半数のパビリオンが、現在も企業、公共団体、大学などの施設として活用されています。ここにも、万博、オリンピックなどの大規模イベントを街づくりの手段とする姿勢が伺われます。

一九八六年十二カ国で構成していたECがEUとなり、本年五月より二十五カ国となりました。スペインのセビリアからポルトガルのリスボンまですばらしい高速道路が開通しており、いつ国境を越えたかわからない状況でした。通貨統合をはじめ、ヨーロッパは一つの国になりつつあることを実感した一幕でした。

